

を目指す人を対象にした開発講座を、NPOと共同開催しています。

また、講座受講中に企画事業を実際に実施することや、展開事業やプランの紹介、事業パートナーの発掘について主体的に取り組んでいました。そして、経営支援や創業支援をする場所を、市が低価格で提供していました。

終わりに

今後、コミュニティビジネスの重要性は、さらに増してくると感じました。

市が積極的にコミュニティビジネスの創業者と企業や支援者との交流の場を作る必要があると感じました。

宮城県名取市

「名取駅周辺整備事業」

「こいつ」

はじめに

名取市は、仙台市の南側に位置し、仙台空港や東北自動車道のICがあるなど、交通の要衝となっています。

行政面積は、羽村市の十倍、人口は、一・二倍で、十万都市を目指しています。JR名取駅の駅舎と駅前広

場は、ユニバーサルデザインを取り入れた設計となっています。

駅前広場の概要

利用の多い東口広場は、「出会い、にぎわい、うるおいあふれる交流広場」をコンセプトに設計され、交流機能の充実と、うるおいある空間を重視した整備がされています。

また、東西共にタクシー待機場場のほかに、一般車の駐車場が確保されており、駐車場をイベント時に使用できるよう、タイヤ止めが地下に収納できる回転式となっています。

駅舎の概要

駅一階には、プラザホールが設置されており、各種会議等に利用できます。また、二階には、インターネット等の情報コーナーがあり、待ち合わせ場所としても利用できます。

自由通路は、有効幅員が六メートル、車椅子がすれ違っても十分な余裕があります。

また、通路の両側には、二段の手すりがあり、壁には展示スペースもあります。

終わりに

名取市の駅前広場整備には、駐輪場対策が入っていないかったのが残念でした。



▲名取駅プラザホールでの説明

自転車対策は、安全面や景観面からも十分な対策が必要と考えます。

経済委員会委員

委員長	船木 良教
副委員長	馳平 耕三
委員	濱中 俊男
委員	中根 康雄
委員	市川 英子
委員	染谷 洋児
委員	雨宮 良彦

厚生委員会

仙台市

「障害者保健福祉計画」

介護保険制度が見直しに伴

いその範囲を障害者まで拡大することを検討するなど、いま障害者を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。

このような中、仙台市では、身体・知的・精神の三障害をはじめすべての障害を対象に、施策を縦割りではなく全体的にとらえた先進的かつ特色ある取り組みを行っています。

中でも障害者の就労支援については全国初の就労支援センターを開設し、また精神障害者施策についても、生活支援センターを開設するなど充実しています。この二施設を中心に、同市の障害者保健福祉計画について視察を行いました。

仙台市の計画の特色

- ・あらゆる障害が対象
- ・施設福祉から地域福祉へ（脱施設・脱病院）
- ・支援センターでのケアマネジメントに力を注ぐ。

仙台市障害者就労支援センター

障害者が社会参加し、社会的・経済的に自立するには、就労が極めて重要であることから、そのための障害者のニーズと地域の社会資源との仲立ちをする施設として開設されました。

主な業務は、障害者の特性に合わせた職業能力の開発支援、事業者への啓発・協力要請などです。こうしたケアマネジメントにはジョブコーチ等が携わっており、就労後も障害者が仕事を覚えるまで一緒に事業所へ行き援助するなど、きめ細かいフォローをしています。また、ITサポート事業に力を入れているのも特徴です。

なお、運営は社会福祉法人に委託しています。

今後の課題は、企業等に対する一層の理解啓発や、新しい仕事・職場の開拓等とのことでした。

精神障害者生活支援センター

正式には「つるがや地域生活支援センターぴあ☆はうす」といい、市の施設をNPO法



▲就労支援センターでの説明



▲民家を利用した「びあ☆はうす」

人が運営しています。業務は生活支援、相談事業、地域交流事業などで、サロンは三百六十五日開放しています。普通の住宅地に立地し、仕様も一般民家を利用しており、引きこもりがちな精神障害者も訪れやすい家庭的な雰囲気を出しています。地域に対して積極的に情報提供し理解を得るよう努めています。その結果、一緒に食事を作ったり、盆踊りなどの行事に参加するなど、地域との交流が深まっています。また、高齢者がうつ病になるケースが多いため、高齢者も受け入れられるなど、障害全般に門戸を開放しています。

課題としては、来所者が周囲の目を気にしたり、電話相談で満足し外に出なくなる心配があるので、何らかの対策を講じたいとのことでした。

そこで「利用者が主体」という原点に立ち返り、施設内に普通の家庭と同じような居場所を設けたところ、入居者にみるみる落ち着きが出てくるなど予想外の展開となりました。これに感激した入居者の家族から地域にある普通の民家

を講じたいとのことでした。障害者の完全参加と平等の実現に向け、他市の模範となる羽村市を築くことが行政、議会、市民の責務であると痛感しました。

「特別養護施設」という言葉があります。しかし、せんだんの杜では、これまでの発想を根本的に見直し、高齢者は地域社会を構成する「普通」の、尊厳を持ったひとりの人間として生きる「権利」を有した方であり、なら「特別」でも「養護」の対象でもないと考えています。同様に、これらの方々が暮らす場所は「施設」ではなく、「介護付き住宅」と考えています。

「逆デイサービス」が始まりました。すると、入居者が食事の支度や買物、掃除などができるようになるなど、すぐに成果が現れ、ついには小学校の学区を単位に家庭的な施設を整備し、地域の中でそれぞれの実情に根ざした取り組みを行うという「サテライトケア」へと結実していきました。

発想の根本的転換 「特別養護施設」という言葉があります。しかし、せんだんの杜では、これまでの発想を根本的に見直し、高齢者は地域社会を構成する「普通」の、尊厳を持ったひとりの人間として生きる「権利」を有した方であり、なら「特別」でも「養護」の対象でもないと考えています。同様に、これらの方々が暮らす場所は「施設」ではなく、「介護付き住宅」と考えています。



▲家庭的なサテライト施設

視察を終えて 東北福祉大学建学の精神を継承し、新たな福祉づくりに情熱を燃やす中里仁杜(もり)長以下職員の方々にお話を伺い、ハード面もさることながら、理念や人材といったソフト面が重要であることを学びました。私たち議員も、住みよいまち羽村をめざし、より一層取り組んでいく決意です。

編集後記 ◇昨年は、夏の猛暑、台風地震と天災が続き、温暖化に伴う異変を心配し、さらに子どもを巻き込む凶悪事件の続発と、心の休まる時がありませんでした。幸い、ここ羽村では自然の猛威を受けませんでした。お互い、常に準備を怠らないようにしたいものです。 経済は回復基調にあると言われていますので、新しい年に期待したいと思えます。

厚生委員会委員

- 委員長 露木 諒一
- 副委員長 高橋美枝子
- 委員 石居 尚郎
- 委員 佐藤 征一
- 委員 菱田 檜樹
- 委員 川崎 明夫

この一年が実り多き年となるよう、知恵を出し、工夫をしまいにあります。(中根記)

《編集委員》

- 桑原 寿 門間 淑子
- 中根 康雄 菱田 檜樹
- 市川 英子



古紙配合率100%再生紙を使用しています



環境にやさしい大豆インキで印刷